環 境 水 道 防 災 委 員 会 記 録（Ｎｏ．２５）

１　日　　時　　令和８年６月１０日（水）
午前　９時５９分　開会
午前１０時２２分　閉会

２　場　　所　　第５委員会室

３　出席委員（９人）

委員長	日野雄二	副委員長	荒川　徹
委員	戸町武弘	委員	田中　元
委員	たかの久仁子	委員	木畑広宣
委員	泉　日出夫	委員	奥村直樹
委員	村上さとこ		

４　欠席委員（０人）

５　出席説明員

環境局長	木下孝則	総務政策部長	佐藤健治
循環社会推進部長	原田健二	業務課長	山倉史子

外　関係職員

６　事務局職員

議事係長	佐々木　雄一郎	書記	山下　絵美理

７　付議事件及び会議結果

番号	付議事件	会議結果
1	議案第75号　令和８年度北九州市一般会計補正予算（第１号）のうち所管分	議案の審査を行った。

８　会議の経過

○委員長（日野雄二君）開会します。

本委員会に付託された議案は、お手元配付の一覧表のとおり１件であります。

審査日程については、本日は議案の審査を行い、明日は議案の採決、陳情の審査及び所管事務の調査を行います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり。）

ありがとうございます。御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

ただいまから議案の審査を行います。

議案第75号のうち所管分を議題とします。当局の説明は、できるだけ要点を簡潔、明瞭にお願い申し上げます。なお、議案の説明は着席のまま受けます。

それでは、説明を求めます。総務政策部長。

○総務政策部長　それでは、本日の委員会で御審議いただく議案につきまして御説明させていただきます。

お手元の資料、令和８年度一般会計補正予算環境局所管分についてを御覧ください。

１のごみ収集指定袋制及び分別等啓発実施事業につきまして、市民が利用する指定袋の製造費高騰への対応のため増額補正を行うものでございます。

資料中に補正予算の金額をまとめておりますので、参考に御覧ください。

以上をもちまして環境局所管分の議案についての説明を終わらせていただきます。よろしく御審議の上、御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（日野雄二君）ありがとうございます。

これより質疑に入ります。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質疑はありませんか。村上委員。

○委員（村上さとこ君）お願いいたします。

まず、補正予算計上の経緯についてお伺いいたします。今回のこの増額は、環境局が年度内の不足見込みを把握して予算要求したものなのでしょうか。それとも、財政・変革局が重点支援地方交付金の活用メニューとして整理した中で計上したものなのでしょうか。お願いいたします。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　今お尋ねいただきました指定袋の製造経費の補正についてでございますけれども、こちらにつきましては現在、例年と同様の調達スケジュールの中で製造を行っているんですけれども、製造単価の上昇が見られると。それに対応するために補正予算を計上する必要があるということで計上させていただいたものになります。

指定袋につきましては、海外で製造されているという状況もございまして、製造に約７か月

から８か月かかるものでございますが、そのために当初予算を活用しまして、今年度も入札を開始しているところでございますけれども、これから入札する分、７月から８月にかけて入札しまして、年度内に納品される部分につきまして、単価の上昇によって予算が不足しておりますため、補正の予算が必要になったというところでございます。

実際に予算のときに見積もっていた額より見積額を今現状ではどうでしょうかというのを取ったときに、どうしても単価が大体おおむね1.7倍から1.8倍ほど上昇しているというところがございますので、それに対応するためにという補正でございます。交付金の活用メニューということではなく、あくまで必要な経費ということで計上させていただいているところでございます。以上です。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）つまり、整理しますと、原局からの要望で補正計上されたということでよろしいですね。経緯が分かりました。

この製造費が当初予算比で原油価格や輸送費の高騰で1.7倍から1.8倍、大変に高騰したということであります。ですので、これは当初予算編成時では上昇が分からなかったということでよろしいんでしょうか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　当初予算で見積もっておりましたときと比べまして、今委員の御指摘のありました原材料価格の面もございますし､円安でございますとか人件費の高騰でございますとか､様々な複合的な要因がやはり単価の上昇につながっているところでございまして、当初ではちょっと見積もっていなかったほど､単価が上昇しているところではございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）当初予算の計上の妥当性というところは、妥当であったということでお伝えいただいたと理解をいたしました。

今回、1.5億円を補正計上しても、今後も円安や物価高騰が続けば、さらなる再補正が必要になるという可能性はまたあるのでしょうか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　再補正の可能性でございますけれども、今回提出させていただきましたのが当初予算の補正という形になります。先ほど申し上げましたように、大体製造に７か月から８か月かかるものですから、今回の当初予算の補正というのは７月、８月にこれから入札する、調達する分が対象になってくるので、それ以降入札するものについては、債務負担の予算という形で既に計上させていただいているものになります。債務負担の予算といいますと、今年度契約をして来年度納品があって、来年度お支払いをするものに関して、事前に約束を取り付けて来年度お支払いするという予算になるんですが、それで確保している額というのもございますけれども、ただ、これが単価の上昇がこのまま継続して続くようであれば、この債務負担の予算

も再度の変更という形に、債務負担額の変更という形になりますが、今後の議会でそういったことをまた補正として上げさせていただく可能性は、現状が続けばあるとは思っております。以上です。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）環境局も物価上昇の見込みを柔軟に対応するということで理解をいたしました。市民が心配なのは、やはり市民負担に跳ね返ってこないかということであります。市民負担に跳ね返らないように、例えば調達先だとか契約方法、在庫管理などを見直せる余地というのは現状であるのでしょうか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　現在、私どもの指定袋の製造の入札といいますのは、ＷＴＯ入札ということで一般競争入札、もともとの予定価格の関係でそういった、どなたでも参加していただける入札になっております。やはり、現状、これがどなたからでも応札いただける中での最安値というところになっております。何かしら工夫をして抑えられることはないか、ちょっと研究を続けていきたいとは思います。以上です。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。北九州市の場合はＷＴＯで入札も海外で、海外生産で、ごみ袋不足などの影響が他都市に比べたら非常に少ないと聞いております。ただ、不足するんじゃないかという市民の心配の声がかなり上がっていることも確かであります。その辺の御理解を市民に伝えていくのにどのような工夫をなさる予定でしょうか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　今、ＷＴＯのお話がございました。海外の方が今入札に応じていらっしゃるというわけではなくて、国内の事業者が応札をされて、指定しているものではございませんけれども、実際は海外で製造されている形にはなっております。あとは、今委員のお話がございましたように、皆様が今後本当にほかの市町村のように不足する状況がないのかというところで、御心配を抱かないようにというところはあるかと思います。

実際には私どもしっかり在庫を確保しておりまして、現時点で半年ほどの在庫を確保しているのと、既に契約をしておりまして、今後納品を待つものも含めますと、年度内の必要数は確保しております。この補正予算を計上させていただきましたことによって、来年度使う分につきましても確保ができる状況ではございます。

あとは、このように大丈夫な状況なので、もう慌てずといいますか、今までも必要なときに必要な分だけ必要量を買っていただいていたと思います。ちゃんと在庫はしっかりあるので、必要なときに買っていただくということをいかに啓発していくかというところは、重要であるとは思っております。どういうふうなメッセージ性として捉えられるかというところを、本当に大丈夫なんだなと皆様に感じていただけるような啓発というか、周知というのはしっかり工

夫を考えていきたいとは思っております。以上です。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。私が間違って入札が海外と言いましたが、ＷＴＯだけども、今は県内の業者さんが応札しているということですよね。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　場合によって異なりますけれども、今落札している業者の中には市内の業者もいらっしゃいますし、福岡県内の業者もいらっしゃるという状況でございます。以上です。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。市民に要らぬ不安を抱かせないように、ぜひ情報発信はしっかりしていただきたいと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君）ほかにございませんか。荒川委員。

○委員（荒川徹君）それでは、私から幾つかお尋ねしたいと思うんですが、本会議で局長は製造コストの上昇をもって手数料を改定することは考えておりませんと言われていますよね。今の質疑でありましたように、今後さらにコストが上がる可能性もあるとおっしゃっていましたけども、今回の補正財源は国の交付金ですけども、今後仮に補正を組む必要があるとすれば、財源について、今の時点でどのように考えているかということをちょっと教えてください。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　今後の補正についてになりますので、そもそも補正が必要になるかどうかというところも含めて今決定しているものではないと思っておりますし、その財源をじゃあ交付金にするというふうに固めているものでもないと思っております。指定袋に関しましては、ごみ処理に係る経費の一部を負担していただいているというところで､そのごみ袋の代金としまして、ごみ処理手数料を17億円ほど年間収入でいただいております。それをまた製造費に充ててといいますか、活用してやっているというところでございますので、基本的にはそういったものが財源となるとは考えております。以上です。

○委員長（日野雄二君）荒川委員。

○委員（荒川徹君）今回の補正財源は国の交付金ですが、これに限らず、今後も仮にコストが上がったとしても値上げ、改定等は考えていないということ、この確認だけしておきたいんですが、いいでしょうか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　指定袋の代金の値上げにつきましては、この料金は先ほど申し上げましたように、ごみ処理手数料としていただいているものになります。指定袋代金ですので、１枚当たり45リットルで50円でございますけれども、現在のこの手数料額はごみの収集運搬や焼却、ごみ処理全般に係る経費のおよそ２割ほどを負担していただいているという状況になっております。

この金額はごみ処理経費でありますとか、あとはごみの排出量とか、そういったところも踏まえまして、やはり受益と負担の関係性を踏まえた市民の負担の在り方でございますとか、ごみ減量の一層の推進、公平性の確保等、そういったところの視点で様々な考慮の上で決定したものでございます。今回の補正予算につきまして、今回上げさせていただいた指定袋の経費は、ごみ処理経費96億円のうちの約４％程度に当たるものになってございますので、そのコストに対応するのが今回の補正予算になりますけれども、このごみ処理の手数料については、やはり様々な要素、それはまた市民の方々と一緒に議論しながら設定してきたものになりますので、製造コストが今上昇したからといって、すぐに値上げをするというところでは現時点ではないと考えております。以上です。

○委員長（日野雄二君）荒川委員。

○委員（荒川徹君）分かりました。それで、それはそれとして、今袋そのものはポリエチレンでできているんですよね。袋の製造に使う原材料が、今いわゆる石油由来になっていますよね。これは地球温暖化対策等の観点も含めて、例えば紙袋等の他の素材に替えることについて検討はできないのかということをちょっと知りたいんですが。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　現在、北九州市の指定袋はポリエチレンという素材でできておりまして、およそほかの市町村も含めまして、このポリエチレン製の袋を導入されております。それはやはりごみを市民の方が出していただくための強度とか柔軟性とか、そういったものを確保できる、ごみが漏れたりしないように使っていただけるというその性質と、あと、現在ちょっと値上がり傾向はもちろんございますけれども、やはり単価が安価に確保できるというところがございますので、その性質と、そういったものを含めて、ポリエチレン製の袋を採用しているというところが主になっております。

紙袋とかを使うというふうになってきますと、じゃあどのようにごみ出しに係る、市民の皆様がごみ出しをする際に不便を生じないようなものを担保できるか。生ごみであれば水が漏れてしまうかもしれないとか、雨の日であれば紙袋を外に出しますと、それが破れてしまって収集ができるかどうか。逆にステーションに散らばってしまったりとか、いろんな要素があると思います。もちろんCO_2の観点というところはございますけれども、ただ、やはりいかに市民の皆様がふだんのごみ出しを快適にというか、利便性を損なわずやっていくかというところを主眼に置きながら、例えば材質を選んでいく必要はあるかなと思っております。以上です。

○委員長（日野雄二君）荒川委員。

○委員（荒川徹君）分かりました。ポリエチレン製のものがそういうふうに優れているというお話ですが、私はポリエチレンを燃やすのと紙を燃やすのと、どっちがCO_2を排出するのかなというのはよく知らないまま尋ねているんですが、それは分かりますか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　単純に材質だけを見ましてポリエチレンと紙ということであれば、紙は森林由来の素材ということになってきます。要するにＣＯ$_2$がとんとんといいますか、森林が吸収する分と、紙として使用される分と考えたときに、そこはゼロになってくるということを考えてそこだけを見ますと、紙のほうがＣＯ$_2$の排出としては少ないと言えますが、先ほど申し上げたような市民の利便性を損なわない形で紙袋等を提供するとなれば､恐らく中に加工したりとか、ある程度ごみ袋とかよりももっと丈夫にするための工夫をしてということになってきますと、そこにやはり何かしらの防水性があるプラスチック素材であるとか、そういったものを塗布するとか、そういったことが必要になってくるんじゃないかと思います。どういった素材でするかということによって、やはり差が出てくると思っておりますので、そうであれば、逆に言うとコストもＣＯ$_2$も紙のほうが増えるということもあり得ると思いますので、本来どういう素材でやっていくべきかは、技術革新もありますし、常に研究を続けていくべきことだとは思っておりますけど､現状ではなかなか単純な比較ではいかないかなと思っております｡以上です。

○委員長（日野雄二君）荒川委員。

○委員（荒川徹君）最後に、本会議でも原油不足、ナフサ等が不足しているという現状の中で、北九州市が持っているいろんな技術を活用して、それに対応することができるんじゃないかという議論があって、いろいろ今北九州市で取り組んでいることが紹介されていましたけども、例えば廃プラスチックをごみ袋に再生するとか、そういうことの対応によってプラスチック全体の焼却量を減らして、プラスチック焼却による温室効果ガスを削減するというようなことも含めて何か、これはすぐにできるかどうかは別にして、今後の方向性としてそういうことも考えていく必要があるんじゃないかと思うんですが、そこはいかがでしょうか。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　廃プラスチックを活用して、それをポリエチレンなりに変えて素材として使っていくという流れを取り組んでいただいている企業さんがあるということは承知しております。ただ現状で言いますと、なかなかコスト面でございますとか、あとは品質の関係、市民の方に現状の指定袋と変わらない状況で快適に使っていただけるものというところとか、やはりクリアしていくべき課題もあるとは思っております。ただ、そういった全てを否定するのではなくて、しっかりどういったものが今後生まれてくるのか、コストも含めながら指定袋として採用するのにより最適な素材は何かということは、しっかり念頭に置きながらやっていきたいとは思っております。以上です。

○委員長（日野雄二君）循環社会推進部長。

○循環社会推進部長　廃プラの利用はしっかりやらないといけないと思っていまして、今私ども市民の皆様から回収させていただいたプラスチックについては、マテリアルリサイクルをやっています。それにつきましては、今市民の身近なものとしては、例えばハンガーとかにも作り替えたりしています。ただ、やはり回収したプラスチックの材質というのが結構混合するん

ですね。単一素材でなかなか難しいので、それをそのまま袋というふうには直結しないんですけども、そうじゃなくって、今言ったようなハンガーであるとか、あとは子供が小学校で使う引き出し、そういうものも作っています。

地味なところでは、業務用であればパレットといって、フォークリフトが荷物を上げるときの土台の部分であるとか、あとは車止めとか、そういうものにリサイクルするようにしています。そういう取組というのも今後もっと強く進めていきますので、そういった形でプラスチックの再生利用を図っていきますので、そこで頑張っていきたいと思っております。以上です。

○委員長（日野雄二君）荒川委員。

○委員（荒川徹君）分かりました。廃プラスチックをいわゆるごみ袋の素材としても使えるのかなと思ってお尋ねしたんですね。今、確かにリサイクルでいろんなことをやっているのはもちろん知っていますし、頑張っていただきたいと思うんですけども、一朝一夕にはなかなか進まないだろうし、コストの問題もあるでしょうけど、ぜひ北九州市としての技術を生かした、今後の取組をやっぱりもっともっと促進してやっていただきたいということを要望して、終わりたいと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君）ほかにございませんか。たかの委員。

○委員（たかの久仁子君）分からないので教えていただきたいんですけれども、ごみ袋には広告が掲載をされておりますが、物価高が続く中、市民負担の軽減のためにも広告はどういう仕組みになっていて、今からどういう努力とかができるのかなと思いまして、教えていただけたらと思っております。

○委員長（日野雄二君）業務課長。

○業務課長　今、委員にお話しいただきましたように、指定袋の本体に広告をつけておりますし、それに加えまして大袋とかにつきましては、外袋のほうにも掲載をさせていただいております。これにつきましては、毎年その年度に製造する分に対して広告代理店の皆様を対象に入札を行っております。こちらの広告枠に関しましては、以前はごみ袋に広告を掲載することによるイメージの問題とかがあって、なかなか広告料が伸びない時期もあったんですけれども、ここ最近は非常に広告料は伸びておりまして、令和６年度の決算値で言いますと約470万円の収入となっております。それは、やはりごみ袋の販売の料金と合わせて、ごみの処理の経費に使っていくという形でやっておりますので、こちらにつきましてはさらに企業の方々に、市民の皆様にとってふだんの生活の中で目に留まる部分になると思いますので、そういったメリットをしっかりＰＲしながら、広告収入の確保にも引き続き努めてまいりたいと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君）たかの委員。

○委員（たかの久仁子君）ありがとうございました。広告収入が470万円あるということなので、いろいろ努力をしていただいて、市民の方に負担が行かないようによろしくお願いいたし

ます。ありがとうございます。

○委員長（日野雄二君）要望としてしっかり受けました。

ほかにございませんか。

ほかになければ、以上で議案の審査を終わります。

明日も午前10時に開会します。

本日は以上で閉会します。

環境水道防災委員会　委員長　　日　野　雄　二　　㊞